

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	通正 使用 措置	感染症(HT)	出典	概要
												トリノノゾー マ 症	Reuters AlertNet 2007年4月13日	WHOによると、感染の数十年後に死亡する可能性もある寄生虫、シャーマン病が、不適切な血液スクリーニングが原因でアメリカから米国やヨーロッパに拡大している。WHOはバエル社の支援を受けて、今や「地球規模の問題」となったシャーマン病に感染している人は900万人に大している。シャーマン病に感染している人は900万人にのぼると見られ、その多くはアメリカの農村部の子どもである。最近では大規模な移民の影響で米国、スペインや他の欧州諸国に広がっている。
												チクングニヤウ イルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 147-149	最近マレーシアでは、7年間検出されていなかったチクングニヤウイルス感染が再興した。分離ウイルスのゲノム配列は、1998年のアウトブレイク時のMalaysian 分離ウイルスの配列との相関性が高かった。この感染の再興は、他のインド洋諸国における流行とは関係ないが、マレーシア特有のチクングニヤウが流行する可能性が浮上している。
												鳥インフルエン ザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	血漿製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処理、即ち、ヒトアルブミンの低温殺菌、静注用免疫グロブリン(IVIG)のSD処理、第VIII因子インヒターバイパス複合体製剤の蒸気加熱、及びVIGの低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイルスの不活性化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンペロープウイルスと同様の挙動を示し、これらのウイルスの不活性化処理によって効果的に不活性化された。
												クロイツフェル ト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2007; 13: 162-164	1999年4月から2005年3月まで日本のCJDサーベイランス委員会に登録されていたプリオン病患者について分析した。日本のプリオン疾患患者597名のうち11名(1.8%)が、発症の前1ヶ月以内に眼科手術を受けた。眼科医はいずれもプリオンタンパクの感染性を除去するには不十分な減菌しか行われていない手術器具を再使用していた。眼科医は、プリオン疾患が眼症状を引き起こす可能性があることを認識し、可能な限り使い捨て器具を使用すべきである。
												BSE	ProMED-mail 20070302.0734	ニュージーランド食品安全局はBSEを取り巻く最新の科学と実際の知識を踏まえて、ウシ及びウシ加工品の輸入規制を改訂する方針である。新しい規制は科学的証拠や最近の国際的な規制に合致したものとすると、輸出する国のBSEリスクデータベースの分類に、国際的に認められた3カテゴリーシステムを導入する。ゼラチンは、原材料の起源およびBSEリスクのある国からの輸入を問わず、全てのゼラチンの売買が自由化される。